

北陸先端科学技術大学院大学研究室教育指針  
Laboratory Education Guideline

研究室教育指針は、学則第30条の3に基づき、研究指導の方法及び内容並びに修了までの研究指導の計画をあらかじめ明示するものです。

Based on the Article 30-3 of the general academic rules, the Laboratory Education Guideline is intended to clearly outline the methods and content of research guidance, as well as the plan for research guidance until completion.

氏名 / name : 伊藤泰信 役職 / official position : 教授

1. 研究テーマ / Research Theme

本研究室では、(1)知識人類学、および、(2)分野横断的な人類学・エスノグラフィの応用研究を2つのテーマの柱としています。現場の手触りにこだわりつつ、日常生活の知から学術的な専門知（そこには人類学者自身の知も含まれる）にいたる、コミュニティや組織における多様な知を、身体・社会・歴史に埋め込まれたものとして捉え、その生成・伝達・創造のプロセスを探る「知識人類学」（知識の文化人類学）の彫琢が研究室のテーマです。また、「文化人類学で／を豊かにする」というスローガンの下、科学技術、医療、産業などの諸領域で分野横断的研究・エスノグラフィの応用研究を研究室全体として志向・試行しています。一方で、他分野の研究や実務を、人類学の知見“で”豊かにできないかと試み、他方で、そうした他分野の研究者や実務者らとのやりとりを通じて文化人類学“を”豊かな、他分野や社会に貢献する開かれた学問へと発展させることを目的としています。

2. 修得が期待される能力 / Competencies expected to be acquired

研究室教育は必修 A 科目（先端）又は研究支援科目（融合）の一部として単位化されており、この欄はそれら科目のシラバス上の達成目標の一部となります。

Laboratory Education is accredited as a part of the Required courses A (Division of Advanced Science and Technology) or Research Support Courses (Division of Transdisciplinary Sciences), and this section constitutes a part of the course goals stated in the syllabus for such subjects.

本研究室では、さまざまなコミュニティや組織の知を、文化人類学的視角から研究しています。物事を社会科学的に把握する能力、および方法論としてのエスノグラフィの能力を身につけることができます。エスノグラフィは、我々にとって馴染みのある事象を“異化”して把握する力をもつ方法論です（馴質異化）。我々がよく知っている会社や病院、学校や大学、研究所の実験室など、その現場にいる人々にとって当たり前すぎて、あえて言語化して問わないような「言わずもがな」「問わずもがな」の事象を“異化”しながら記述・分析するエスノグラフィは、現場の課題発見や人々の生活に潜むニーズ発掘のためのインサイトなどに繋がるとされ、ビジネス／デザインの領域でも重用されるに至っています。こうした能力を本研究室では涵養します。

3. 研究指導方針 / Research Guiding Principle

【テーマ選定と領域横断的環境】 研究室ではテーマ選びを慎重に指導します。狭義の文化人類学や社会学を教える大学院は日本国内に多々あります。しかし、学部のバックグラウンドを問わない JAIST での、領域横断的な環境でそれらを学ぶことで、他の大学院では出せないようなユニークな研究成果が出せるものと考えています。たとえば機械工学系の学部教育を受けてきた学生が、文化人類学や社会学を私の研究室で学ぶことで、学部時代の知識も活かしつつ、精密機械工場の現場での課題抽出・課題解決を目指したエスノグラフィ研究を行うなどが一例です。そうした試みは、文化人類学だけ、あるいは、社会学だけを学部から専攻してきた学生にはないユニークなエスノグラフィ研究を生み出す可能性を秘めています。

【社会人教育とアンラーニング】 伊藤研究室では社会人教育に力を入れています。社会人学生はそれぞれの専門性をもった職業人です。伊藤研究室（東京）には医師や看護師、デザイナーやエンジニアなど多様な社会人学生が所属しています。その専門性を JAIST での研究にうまく活用できれば良い研究が可能になりますが、他方、社会人学生の場合、1)経験やプライドが大学院での研究の妨げとなることも多々あります。そのため、2)自身の経験に照らして知識を取捨選択しがち、柔軟に助言を受け取らないことも起こりがちで

す。3)新しい価値観・知識を身に付けるには、時には慣れ親しんだ価値観・知識から離れる（アンラーンする）必要がありますが、経験が豊富であるほどアンラーニングに困難を伴いがちです。これらを踏まえつつ、じっくりと取り組んでもらいたいと考えています。

【ゼミの運営】 研究室ゼミは授業期間中、週に1度実施します。研究室ゼミは2種類あり、進捗報告のゼミと文献レビューゼミとを交互に隔週で実施します。進捗報告ゼミでは、毎回2名程度の担当者が研究の進捗状況を報告します。文献レビューゼミでは、研究にとって有益な論文の内容を解説・議論します。必要に応じて不定期に個人ミーティングにて研究指導を実施します。社会人学生向けのゼミも同様に、進捗報告ゼミ、および、文献レビューゼミに分かれ、それぞれ月に1度ずつ実施します。

#### 4. 研究室活動の内容及び方法 / Content and Methods of Laboratory Activities

- 日次活動 / Daily Activities : 自主学習（コアタイムはとくに定めない）
- 週次活動 / Weekly Activities : 研究室ゼミ（週1回）（進捗報告ゼミ（隔週1回）と、文献レビューゼミ（隔週1回）とを交互に実施。
- 月次活動 / Monthly Activities : 東京社会人向け研究室ゼミ（月1回）、文献レビューゼミ（月1回）
- 不定期活動 / Occasional Activities : 個別指導ミーティング、発表練習会、石川・東京合同ゼミ、研究室合宿、外部講師を招いた研究室主催セミナー等も実施。

#### 5. 年間スケジュール / Annual Schedule

本学の全学共通の年間スケジュールは「履修案内」の「学位取得に至るスケジュール」を参照してください。（本学HP参照：ホーム>教育>履修関係>履修案内）

Please refer to the “Degree conferment schedule for the master’s program/doctoral program” in the “Degree Completion Guide” for university-wide common schedule (JAIST website: Home > Education > Taking Courses > Degree Completion Guide)

入学時期が4月か10月か、また、石川本校か東京サテライトの社会人かによって異なりますが、新入生には生活や勉学が軌道に乗るよう支援します。入学後数ヶ月は研究のベースとなる授業の履修に集中するよう指導します。また入学後は先行研究文献のレビューで研究の幅や奥行きを広げるように指導します。とりわけ、新しい知識を身に付けるには、時には慣れ親しんだ知識から離れる（アンラーンする）必要がありますが、文献レビューやその議論を通じてそのことを学んでもらいます。4月入学者であれば12月まで、10月入学者であれば6月までの半年間で研究計画を具体化します。

並行してゼミの進捗報告などの機会を通じて、発表や質疑応答の作法を身につけてもらいます。また、授業や研究室ゼミを通じてフィールド調査の技法や倫理などについて学んでもらいます。ゼミや合宿では下級生の研究に対してアドバイスする側に回ることも経験することで自身の研究能力を高めます。

社会人学生においては、研究においては自身で研究時間をマネジメントすることが求められますので、自主的に時間を確保して進める（ある程度進捗が報告できるご自身のタイミングで、共創ゼミその他の機会を通じて教員らに自発的に報告する）ことを促します。